

## 令和元年度 IYP～石狩の未来を考える子ども議会 2019～ 議事録

日時 令和元年 10 月 14 日（月・祝）14 時 00 分～15 時 50 分

場所 石狩市役所 議場

### 次第

- 1 議員入場（司会：石狩市立花川南中学校 2 年 安部静香）
- 2 激励の言葉（石狩市議会議長 加納洋明）
- 3 開会
- 4 令和元年度 IYP～石狩の未来を考える子ども議会～概要説明
- 5 議事

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 提案・質問

#### 代表質問

『手話グループ』

・手話のまちいしかりのこれからについて

#### 一般質問（2名）

『学校グループ』

・生徒の声を聴く取り組みについて  
・学校施設の老朽化について  
・学習スペースの設置について

#### 代表質問

『まちづくりグループ』

・水道について

#### 一般質問（3名）

『選挙グループ』

・選挙について

- 6 講評（石狩市議会副議長 上村賢）

- 7 閉会

## 出席者

### 子ども議員（敬称略）

森 華音	戸嶋 友成(副議長)	杉中 佑圭(議長)	荒木 結女
安部 静香(司会)	植松 輝也	菊池 あん	堀井 杏珠
横山 莉得	加地 未玖	寺山 大貴	鈴木 歩羽
石岡 茉帆	石垣 凜	大崎 瑠菜	

## 来賓

市議会議長	加納 洋明
市議会副議長	上村 賢
市議会監査	花田 和彦
議会運営委員会委員長	片平 一義
総務常任委員会委員長	伊藤 一治
厚生常任委員会委員長	高田 静夫
建設文教常任委員会委員長	加藤 泰博

## 説明員

市長	加藤 龍幸	副市長	鎌田 英暢
教育長	佐々木 隆哉	代表監査委員	百井 宏己
選挙管理委員会事務局長	及川 浩史	企画経済部長	小鷹 雅晴
産業振興担当部長	本間 孝之	生涯学習部長	安崎 克仁
保健福祉部長	大塚 隆宣	水道担当部長	清野 馨
建設水道部長	清水 雅季		

## 事務局

子ども政策課	伊藤 学志、川畑 昌博、青木 宏美、村田 範江、北岡 里依、神崎 亮太 鈴木 里美、村上 理絵
議会事務局	久田 智世那
浜益支所生涯学習課	菊地 直人

傍聴者 44名

## 1．議員入場

司会

皆さん、こんにちは。IYPの花川南中学校の安部です。

始めに、今回の台風19号により、被災された皆さまそのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

それでは、これから子ども議員が1人ずつ入場します。議場の皆さんは拍手でお迎えください。子ども議員の入場です。

(子ども議員紹介)

これで子ども議員の紹介を終わります。今日は皆さんよろしく申し上げます。

## 2．激励の言葉（石狩市議会 加納議長挨拶）

司会

それでは、開会に先立ちまして、石狩市議会加納洋明議長より、激励のご挨拶を頂きたいと思っております。よろしくお願いいたします。

加納議長

IYP議員の皆さんこんにちは。石狩市議会議長の加納洋明と申します。第5回の子ども議会の開催、誠におめでとうございます。今年もたくさん子ども議員の皆さんに会えて、大変うれしく思っています。皆さんの目線で、石狩市の未来に希望のもてる提案をいただきたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

皆さんは、今日の日を迎えるまで、土曜・日曜や夏休みの時間を通じて5回にわたるミーティングを行ってきたと伺っております。本日は、皆さんの目線から見えてきた市の課題や疑問に感じたことなどをはじめ、これからの石狩市がさらに住みよいまちとなるための斬新で、鋭い提案を期待しています。

今年5月に、石狩市長・石狩市議会議員選挙が行われ、加藤市長が就任されましたが、市議会でも新たに6名の新人議員が誕生いたしました。子ども議会の参加をきっかけに、石狩市議会の活動にも関心をもっていただけると、議長としては大変期待をしております。将来、皆さんの中から石狩市議会議員となる方がもしかしたら現れるかもしれません。そのようなことも期待しつつ、本日の皆さんを応援したいと思っています。

最後に、IYPの皆さんをはじめ、これまでの活動を支援して下さった保護者の皆様、そして教職員の皆様に感謝とお礼を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。皆さん、胸をはって力強く登壇してください。終わります。

司会

加納議長、ありがとうございました。

それでは、まもなく子ども議会の開会です。

### 3．開会

杉中議長

皆さん、こんにちは。

ただいまから、令和元年度 IYP「石狩の未来を考える子ども議会」を開会いたします。

私は議長を務める花川北中学校、杉中佑圭です。よろしくお願いします。

本日の日程は、お手元に配布のとおりです。

### 4．令和元年度 IYP「石狩の未来を考える子ども議会」の概要説明

杉中議長

続いて、IYP「石狩の未来を考える子ども議会」の概要を説明します。

私たち子ども議員は、IYP（石狩ヤングプロジェクト）のメンバーとして、石狩市内の各中学校・高校から推薦されています。

IYP（石狩ヤングプロジェクト）とは、子どもたちが意見を表明する機会やまちづくりに子どもの視点を取り入れるために作られたプロジェクトチームで、平成 22 年から活動しています。今年は、子ども議会のために、7月 27 日から 5 回のミーティングを行い、提案内容を考えてきました。

今日は、加藤市長・佐々木教育長を初め、市役所の皆さんから、私たちの提案や質問について答弁をしていただきます。これから私たちが発表する意見が、今後の石狩市のまちづくりに活かされ、誰もが「住み続けたい！住みたい！」と思う石狩市になることを願います。

これで説明を終わります。

### 5．議事

杉中議長

それでは、議事を始めます。

日程第 1「会議録署名議員の指名」を議題といたします。

会議録署名議員は、花川南中学校、安部議員を指名いたします。

次に、日程第 2「会期の決定」について、を議題といたします。

お諮りいたします。今議会の会期は、本日 1 日間といたしたいと思えます。ご異議ありませんか。

（異議なし）

ご異議なしと認めます。したがって、会期は、本日 1 日間と決定いたしました。

それでは、これから日程第 3「提案・質問」に移ります。代表質問については、グループごとに考えた内容を市長・教育長に提案・質問いたします。一般質問については、個人で市長・教育長に提案・質問いたします。

なお、傍聴席からの発言はできませんので、何かございましたら、お配りしましたアンケート用紙にご記入ください。

それでは、順序に従い、順次許可いたします。

最初は「手話グループ」の質問です。花川北中学校 戸嶋議員、浜益中学校 鈴木議員、花川中学校 森議員、よろしくお願いします。

それでは、手話グループよろしく申し上げます。

手話グループ全員

みなさん、こんにちは。私の名前は戸嶋です。私の名前は鈴木です。私の名前は森です。(手話つき)

戸嶋議員(花川北中)

「手話のまち石狩のこれから」についてご質問します。(手話つき)

石狩市は、手話は言語であることを認め、平成 25 年に全国の市町村では初めてとなる「石狩市手話に関する基本条例」が制定され、手話のまちと呼ばれるようになりました。

私たちは、年に一回程度学校の授業の中で手話を学んでいるため、自分の名前や挨拶程度なら手話で表すことができようになるようになり、手話の授業は効果的であると思います。一方でせっかく覚えても、日頃使う場面がなければ忘れてしまいます。このようなことでは実際に手話を使える場面になっても、使うことができないかもしれません。条例の制定から 6 年経過し、手話への理解が深まってきていると感じますが、今後はさらに石狩市全体がもっと手話を身近に感じられるような環境を作っていけたらいいのではないかと考えました。私たちは、りんくるで手話検定のポスターを見て 5 級からあることを知り、5 級は、挨拶・自己紹介・読み取り・単語・面談があり、200-300 語必要になることがわかりました。

鈴木議員(浜益中学校)

そこで、1 点目の質問です。石狩市ではどのような手話教室が開催されているのでしょうか。2 点目は、手話検定を石狩市内で行うことはできるか、お伺いします。

杉中議長

加藤市長

加藤市長

みなさん、こんにちは。石狩市長の加藤です。

質問の冒頭、手話表現を交えてご発言をいただきました。何度も練習された様子が伝わってきました。大変嬉しく思います。(手話つき)

それでは、手話グループの代表質問にお答えをいたします。

平成 25 年に制定をいたしました「石狩市手話に関する基本条例」は、「手話は言語である」ということを認めるための条例です。手話言語で生活する人や聞こえない人を理解し、お互いを認め合うために、「こんにちは」や「ありがとう」などの簡単な挨拶程度は手話で表現できるようになりましたね、ということが条例を制定したねらいでもあります。

最初に、1 点目の「手話教室」についてお答えをいたします。

現在、市では手話出前講座と初級手話講習会を行っております。手話出前講座では条例制定の目

的をお話しし、あいさつや自分の名前を手話で表現できるような練習をしております。昨年度は、市内の小中学校や放課後児童クラブ、町内会、道の駅など、計 229 回の講座を開催し、延べ 7,170 人の方に受講をいただきました。この数は、市民の 1 割以上の方が受講したことになります。

また、「りんくる」では初心者の方を対象とした初級手話講習会を毎年開催しております。全 34 回のカリキュラムを受講しますと、あいさつや自己紹介、簡単な会話もできるようになります。条例制定以降、延べ 76 人の方に受講いただいております。実は私も昨年度、この講座に通わせていただきまして、3 回程度は欠席しましたが、修了証書をいただいたのですが、少しはできるかなあといったくらいで、やはり手話を使う機会がないとなかなか身につくことはできないんだなあと思っております。

次に、2 点目の「手話検定」についてお答えいたします。

手話検定を市内で受けることが可能ですかというご質問ですが、手話検定は全国手話研修センターが実施しております、毎年 10 月に 47 都道府県で開催されております。北海道では、札幌市、旭川市、釧路市、函館市の 4 会場で開催されております。

石狩市での単独開催となりますと、5 級であれば 10 人以上の受験者がいること、また、会場や試験官の確保など、一定の要件を満たす必要がありますので、受験者の数が増えるまでの過程では、隣のまちである札幌市での検定試験を受けることを広くお知らせしていきたいと思っております。

私からの答えは以上であります。これからも皆さんには学校生活や日常生活の中で、積極的に手話で表現していただければなあと思っています。また、毎年 1 回北コミで「手話フェスタ」を行っておりますし、例えば、昨日一昨日とスポーツ広場で全国ろう者のためのソフトボールが行われておりました。そういう所に行って、直接ろう者の方と会話をすることというのも大事ではないかと思っております。

私からは以上です。

杉中議長

ただいまの答弁に、再質問はありますか。

鈴木議員（浜益中）

お話を伺って講習会が市内の様々な場所で開催され、沢山の方が受講されていると感じました。また公式の手話検定を石狩市で開催するためには色々な条件があることもわかりました。

そこで提案です。小学校や児童館では、独自の縄跳び検定やけん玉検定を行っており、楽しく意欲を持って自主的に取り組むことができます。小さな子どもでも取り組みやすく、誰でも気軽にスタートできる石狩市独自の手話検定はできないのでしょうか。たとえば公式な検定が 5 級からあるので、10 級から 6 級を作って、試験ではなくチェック項目をクリアできたら、 級レベルなどとするれば、手話がより身近なものとなって将来的に手話検定受験にも繋がっていくのではと思いますが、いかがでしょうか。

杉中議長

加藤市長

加藤市長

重ねてのご質問ですが、石狩市独自の検定を作ってはどうかのご質問であります。

大変興味深いご提案ではありますが、手話検定を受けられるのであれば、石狩バージョン、石狩だけのものではなく、全国的に認められている手話検定を目指して欲しいというのが私自身の思いであります。

私が市長に就任して最初のイベントは、就任後3日目くらいの6月に開催された、先ほどもお話しした「石狩手話フェスタ」でありました。そこで、全部手話で挨拶をさせていただいたのですが、手話が通じたときの暖かさを本当に感じました。それは手話が言語として認められてきていると思えたからです。

そして、もうひとつ感じたことは、多くの皆さんが楽しみながら手話に触れられていたことでした。おそらく皆さんも、手話検定を通して、手話に触れる機会を増やし、理解を深めることが目的であるのではないかと思います。また、学校の出前授業で覚えた手話を実際に使ってみたいという思いもあるでしょう。

手話に触れる機会は、非常に大事なことであります。皆さんの思いをどのような形で実行できるかは、これからになりますが、今後「手話フェスタ」などのイベントの中で、楽しみながら、親しみがあがり、身近に感じられる、そのようなメニューについて、全国の市町村で一番最初に条例を制定したまちとしてを考えていきたいと思っております。

私からは以上です。

杉中議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

鈴木議員（浜益中）

私たちは「手話のまち いしかり」の一市民として、小さい頃から手話に親しめる環境が整い、日常的に手話が使われるまちになることを願っています。私たち生徒会からは学校に向けて「校歌の一部に取り入れるなど」発案してみたいと思います。

これで質問を終わります。ありがとうございました。（手話つき）

杉中議長

以上で、「手話グループ」からの代表質問を終わります。発表を終えた3名に大きな拍手をお願いします。

杉中議長

それでは、続きまして一般質問に移ります。

花川中学校 森議員、石狩中学校 堀井議員、よろしく申し上げます。

それでは、花川中学校 森議員、よろしく申し上げます。

森議員（花川中学校）

私は緑苑台に住んでおり、花川中学校まで夏は自転車で通っていますが、通学路は道道花畔札幌線のため、緑苑台東1～2条に住んでいる人はかなり遠回りをしている状況です。現在、緑苑台と

花川北をつなぐ花川北 11 線道路の工事をしており、完成すれば歩道が拡張されて広がるため、そこを通ることができるのととても便利になります。花川北 11 線道路が通学路として指定される予定はあるでしょうか。

杉中議長  
安崎生涯学習部長

安崎生涯学習部長  
花川中学校 森華音議員のご質問にお答えいたします。

まもなく整備が終了する花川北 11 線通は、歩道の幅員も広がって外灯も一部 LED 化されるなど、これまでとは見違えるほど道路環境が向上します。

しかし、通学路として考えてみますと、道路沿いに住宅がなく、生徒のみなさんを見守る「地域の目」がございません。万が一、不測の事態が発生したときに、助けを求めることができないなど、防犯上の大きな課題が残ります。道路の工事はもうじき終わりますが、この防犯面の課題が解消されない限り通学路に指定することは難しいと、花川中学校からはお聞きしています。

私からは以上です。

杉中議長  
ただいまの答弁について、何かありますか。  
続きまして、石狩中学校 堀井議員、よろしく申し上げます。

堀井議員（石狩中）

私は、美術部に所属しています。美術部での活動では 1 年間でいくつかの作品をつくっていますが、作った作品はコンテストに応募する以外では、学校祭くらいしか披露する機会がありません。スポーツ系の部活動では大会や試合など練習の成果を発揮する機会がありますが、文化系の部活動は日ごろの部活動での成果を発表する機会が少ないと思います。

そこで質問ですが、市では文化系の部活動をしている中学生や高校生が日ごろの活動の成果を発表する場面はあるのでしょうか。また、市では毎年文化祭を開催していますが、文化祭には私たちは参加することはできないのでしょうか。もし、できるとしたらどのようにすれば参加できるのかも教えてください。

杉中議長  
大塚保健福祉部長

大塚保健福祉部長  
石狩中学校 堀井杏珠議員のご質問にお答えいたします。

始めに私の方から、文化系部活動の成果を発表する場についてお答えさせていただきます。市内の中学校や高校では、吹奏楽だけでなく、絵画やイラスト、工芸、書道などの文化部が活発にされていることは私も承知しています。やはり、頑張った成果を発表する場があると、目標ができ、日々の活動にもさらに力が入りますよね。市ではそのような機会を提供する「中高生フェスティバル」という展示イベントを実施しているところでございます。これまで市民図書館などで市内の中高生の



皆様から様々な作品が出展され、多くの市民の目に留まっております。今年は場所を変えてりんくで展示を行います。ちょうど今作品の募集を行っているところですので、是非、学校で話し合っ  
て、参加していただければと思います。たくさんの出品をお待ちしております。

私からは以上であります。

杉中議長  
安崎生涯学習部長

安崎生涯学習部長

ただいまのご質問のうち、「市民文化祭」について私からお答えいたします。

石狩市民文化祭は、毎年10月から11月にかけて、花川南・北コミセン、厚田総合センター、浜益コミセンきらりで開催されていますが、これまで、厚田・浜益会場はもとより、花川会場でも大勢の小・中・高校生が参加をいただいております。ここ2年は花川南中学校の美術部が絵画の展示や映像パフォーマンスを行いました。文化祭の企画運営に当たる実行委員会は若年層の皆さんの参加を積極的に求めており、市としても、個人であれ団体であれ、中高生を含む若者の芸術文化の発表の場に石狩市民文化祭を大いに利用していただきたいと考えております。なお、参加方法につきましては、石狩会場は石狩市文化協会が例年広報5月号で募集を行っております。厚田・浜益会場は各地区内のポスターや回覧板等で募集をしております。

今後は、中高生フェスティバルや市民文化祭等の情報を、学校経由でも皆さんに届けることができ  
ないか、学校と相談してまいります。

私からは以上です。

杉中議長  
ただいまの答弁について、何かありますか。  
石狩中学校 堀井議員。

堀井議員（石狩中）  
市の行事や市民文化祭への参加について、部活の先生や学校の先生と相談してみたいと思います。  
ありがとうございました。

杉中議長  
以上で、「手話グループ」、「学校グループ」からの一般質問を終わります。発表を終えた2名に大  
きな拍手をお願いします。

続きまして、「学校グループ」の質問です。  
花川南中学校 荒木議員、樽川中学校 菊池議員、浜益中学校 寺山議員、石狩中学校 堀井議員、よ  
ろしくをお願いします。

それでは、学校グループ、よろしくをお願いします。

荒木議員（花川南中）

私たち「学校グループ」からは「生徒の声を聴く取り組み」と「学校施設の老朽化」そして「学習スペースの設置」について質問します。

始めに、「生徒の声を聴く取り組み」についてですが、私たち学校グループは、それぞれの学校のことについて話し合いをし、そこで、校則についての話題となりました。以前までは生徒手帳をみんなが持っていて、そこに校則が書いてあったと聞きましたが、今は多くの学校で生徒手帳がなくなっているので校則を細かく比べることはできませんでした。しかしながら学校生活を送る中での登校のスタイル、例えば毎日制服での登校を基本とする学校もあれば、時間割によってジャージでの登校を認めている学校、時間割に関係なくジャージでの登校を認めている学校など、同じ石狩市内でも学校のきまりに違いがあることがわかりました。校則や学校のきまりについては、それぞれの学校の事情があることはわかりますが、自分の学校でも参考にしてもらいたい、検討してもらいたいと思う内容もあるのではと思いました。

また、先生たちのスケジュールを把握できる掲示板の設置や、掃除道具を定期的に新しくしてもらいたいなどの意見もあがりました。その他にも学校で生活している生徒たちには様々な要望や意見があり、個々が先生に相談することが必要な内容もあることはわかっていますが、生徒の意見として公式に伝える場やタイミングがないこと、また生徒の意見がどのように検討されているのかわからないのも現実です。

これら実際に過ごしている生徒の生の声を聴くことは学校だけではなく、教育環境を向上させるためには必要なことだと思います。そこで質問です。私たちが直接意見を伝える場を設けていただきたいと考えますが、生徒が学校に対して意見を反映させる取り組みについて、教育委員会の考えをお伺いします。

菊池議員（樽川中）

次に、私から学校施設が老朽化していることについて質問いたします。

私は、ソフトテニス部に属していますが、テニスコートが長年の使用によりボコボコで、雨が降ったあとは水が乾きにくくともに練習することができません。これはグラウンドも同じ状況です。このため、私たち部員は良い環境で練習するため市内の公園などへ移動し練習をしていますが、移動時間がかかってしまいます。また、他の学校では体育館が雨漏りし、使用前に雑巾がけやモップがけなどを行っているということも耳にしました。このような施設の状況では処理に時間を要するほか、足を滑らせてケガをする危険性もあります。これら施設を修繕することで移動や雑巾がけといった時間を減らすことができ、そのぶん練習に費やす時間を増やすことができます。また、つまずいたり、足をすべらすリスクも減らすことができると考えますが、市内の学校がこのような状態となっていることについてどのように思われますか。また、今後の施設整備や修繕の計画はあるのかについてお伺いします。

寺山議員（浜益中）

最後に私から「学習スペースの設置」について質問をします。

私たち学校グループでは、家庭学習についての話し合いの中で長期休暇中は家だと様々な誘惑があったり、兄弟など周りの声がさわがしいなど集中して勉強することが難しいという意見がありました。塾に通う生徒から聞いたところでは、自習ができる部屋があるので、塾に通う生徒は自習室

を使って勉強をすることができますが、塾に通わない人はそのような場所がなく、花川南から市民図書館まで行ったりしている子もいるそうです。特に私たちのような高校受験を控えた3年生には少しでも集中して勉強ができる環境が必要だと考えます。

そこで私たちからの提案なのですが、長期休暇中や放課後など使用していない教室などを自習スペースとして開放してはいかがでしょうか。

以上、私たちからの質問及び提案です。よろしくお願いします。

杉中議長  
佐々木教育長

佐々木教育長

学校グループの代表質問に私からお答えいたします。

始めに、「生徒の声を聞き取り組み」についてお答えいたします。

生徒の皆さんがいただいている様々な要望や意見を学校に示す場として、委員会活動を含めた生徒会の活動、あるいは集会活動、学級活動といった場で議論を交わすという方法はいかがでしょうか。このような場において、自ら考え、考えを出し合って皆で協議し、考えを深め、どういう取り組みをするかということを決めていくというプロセスは、非常に大事なものだと考えます。

これらについては、すでに年間の学習時間や内容が決められていると思いますが、まずは、担任の先生に相談をしてみてもいいかと思いますが、この学習時間で、自分たちの日常を振り返り、自ら規律ある生活を送るために様々な課題を見出し、課題の解決に向けて話し合い、決まったことに対して協力して実践したり、意思決定したことについて取り組んだりしていただければと思います。

学校をより良くしていくことはまちづくりの大切な要素でありまして、中学生や高校生もまちづくりの主役である市民の大事な一員でございます。ぜひ皆さんには、そうした自覚を持っていただいて、自らの発言や行動に責任を持ちながら、身の回りのさまざまなことを主体的に考え、その結果をしっかりと表明できるようになっていただければ非常に嬉しいと思います。

続きまして「学校施設の老朽化対策について」のご質問でございます。

市内の小中学校の多くは、人口が急増した昭和50年代から60年代にかけて建てられたので、すでに30~40年も経ったこととなります。文部科学省によると、現在、全国の小中学校が築25年以上経過し、一斉に改修時期を迎えつつあるということですが、石狩市もまさに同じ状況です。そうした中、毎年度、教育委員会には学校から多くの修繕の要望が寄せられております。市の財政も厳しく、緊急性の高いものから優先的に対応しているところでありますけれども、教育委員会が使うことのできる予算も限られておりますので、残念ながらご質問にありましたテニスコートも含め多くの要望には応えられないのが現状でございます。市役所では限りあるお金を、まちの成長や時代の要請に応じ対応しなければならない行政の課題に、その都度、重点的に予算を振り向けるということをしております。教育分野で言うと、最近は学校の強度の耐震化やパソコンの整備を優先しなければならない状況でありまして、ご質問にあったような学校の施設改修になかなか多くのお金を回すことができませんでした。結果的にみなさんの学校生活に不自由をおかけする場面が少なからず生じていることは、大変申し訳なく思います。

老朽化した学校の改修計画は、来年度、全市的に策定します。それに向けまして、現在、各学校

の屋根や外壁・内壁、設備の状況を調査しており、計画の中で改修範囲やどの学校を優先にするかなどを明らかにしていきたいと考えてございます。今後は、その計画沿って改修を進めていくこととしてございます。なお、ご質問にあった体育館の雨漏りにつきましては、速やかに、その原因を探りたいと考えてございます。

最後に、「自習のための教室の開放」についてのご質問でございます。

市内の小中学校では、すでに長期休業中に教室を開放して学習会を開催したり、放課後に補充学習を実施したりしているところがあります。それとは別に、ご質問のように長期休業中や放課後に教室を自習のために開放することになりますと、開放中に事故などが起こらないように見届ける役割の先生を、その教室に配置することが望ましいということになります。報道等でご存知かもしれませんが、いま全国的に、長時間労働が当たり前とされてきた先生方のこれまでの働き方を見直して、先生方が休む時はしっかり休む、そして本来の業務に集中できるようにするといった取り組みが加速しています。

おそらく先生方は、皆さんたちから「自習したい」という風に言われれば、その熱意をしっかり受け止めたいという風に考えると思います。ただ、こうした全国的な動きがある中で、見届け役の先生を確保できるかどうか、あるいはそれに代わるような何かの対策ができるかというのは、それぞれの学校の状況によって変わってくるだろうと思います。こうしたことも頭の片隅に置いていただいた上で、学校の管理運営上の責任を担ってらっしゃる校長先生や教頭先生、あるいは担任の先生に、相談してみたいかと思っております。

私としても、皆さんの思いを形とするために、どういう方法があるのかということを考えていきたいとこのように考えております。

以上です。

杉中議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

花川南中学校、荒木議員。

荒木議員（花川南中）

私から再度質問させていただきます。私たちが学校に直接意見を伝える場の設定について、教育委員会から学校に伝えてもらうことはできないのでしょうか。

杉中議長

佐々木教育長

佐々木教育長

この子ども議会の場でこういう意見をいただきましたという話は、これまでも毎年伝えてきております。従って、本日こういったご意見をいただいたということは、私の方からも学校に伝えさせていただきます。

杉中議長

ほかに、再質問はありますか。

浜益中学校、寺山議員。

寺山議員（浜益中）

「学習スペースの確保」についてですが、学校以外の市の公共施設を利用することは可能でしょうか。樽川地区に新しい子どもの施設を建てる計画があると伺っていますが、そこに学習スペースを設置してはいかがでしょうか。市の考えをお聞かせください。

杉中議長

加藤市長

加藤市長

重ねてのご質問に私からお答えします。

ご質問にありました樽川地区の件であります。私の記憶に間違いがなければ4～5年前の子ども議会において、花川南地区においても北地区にあるような子どもの居場所づくり、そういう施設を造ったらどうですかというような質問がありました。それらを踏まえて、市では近年、樽川地区にあるふれあいの杜公園内に子どもや子育てのための施設の建設を計画しています。この施設のどのような機能を持たせるかということについては、そこにお住まいの地域の皆さんのご意見を伺ったり、そばにある樽川中学、花川南中学の2年生の皆さんにアンケートを行わせていただきました。その中の意見としては、小さなお子さんから高校生までが使える施設として、スポーツをはじめ音楽や創作などの文化活動、自習や学習のスペースなどのご要望がありました。

市としても、小学生だけでなく中学生・高校生もスポーツ等を楽しみ、自由にくつろいだり、自習や学習支援などに利用してもらえる場所にしたいと考えておりますので、今現在皆さんからいただいたご意見をまとめて、できる限り、それらの要望を取り入れた施設の機能を盛り込んでいきたいと考えております。ただ、完成についてはもう少し先になってしまいますが、それまでの間は、公共的な場所などで学習支援などの取り組みができないかも併せて検討をしてみたいと思います。

私からは以上です。

杉中議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後に一言お願いいたします。

寺山議員（浜益中）

私たちからの提案について、真剣に取り組んでいただきありがとうございます。私たちもこのような学校生活における問題について、私たち自身どのようなことができるのかを考え、先生たちと共に話し合い、よりよい学校生活を送れるよう頑張っていきます。私たちの学校グループからの質問は以上で終わります。ありがとうございました。

杉中議長

以上で、「学校グループ」からの代表質問を終わります。発表を終えた4名に大きな拍手をお願い

します。

杉中議長

ここで10分間休憩いたします。再開は、15時00分といたします。

(休憩)

戸嶋副議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

杉中議長に代わり、ここから議事の進行を行います、副議長の花川北中学校の戸嶋です。よろしくお願ひします。

それでは、続きまして、代表質問に移ります。「まちづくりグループ」の質問です。花川北中学校 杉中議員、石狩中学校 横山議員、樽川中学校 植松議員、厚田中学校 加地議員、よろしくお願ひします。

それでは、まちづくりグループよろしくお願ひします。

杉中議員(花川北中)

僕たち「まちづくりグループ」は、水道のことについて質問します。

まず初めに、去年9月の北海道胆振東部地震のときに、家の水が使えない状況でも、公園の水は出ていたので、なぜか?ということから疑問をもち、そこから水道の仕組みがどうなっているのかを調べることにしました。

僕たちが調べたり市の職員の方から聞いたりしてわかったことは、今、私たちが使っている花川地区の水は、平成24年10月に完成した当別ダムから来ており、その前は地下水を使ったり、札幌から水を買ったりしていたということ、また地図を見ると、石狩市内にも、五(ご)の沢(さわ)ダムや高富(たかとも)ダムなどがありますが、そのダムは水道の水ではなく、農業用水として使っているということがわかりました。

また、花川地区では当別ダムの水を使っていますが、厚田区は幌内(ほろない)川、浜益区は郡(くん)別(べつ)川などから水を引いていることがわかりました。

そこで質問です。

1点目は、石狩地区では当別ダム、その他の厚田・濃昼・浜益では付近の川などから水が引かれていて、場所によって水源が違うことはわかったのですが、なぜ、石狩地区の水源は石狩川ではないのでしょうか。また当別ダムになった理由も併せて教えてください。

2点目は、身近な人などから、石狩市の水道料金は札幌市より高いと聞きますが、その理由は何なのでしょうか。

横山議員(石狩中)

3点目は、北海道胆振東部地震で家の水が使えないときも、公園の水は出ていたのはなぜですか。

4点目は、水道管の老朽化が問題となっていると聞きますが、水道管はどのくらいの頻度で、どんなタイミングで、どのように更新しているのでしょうか。

戸嶋副議長

加藤市長

加藤市長

「まちづくりグループ」の代表質問にお答えをいたします。

最初に、1点目の石狩地区の水源が石狩川ではない理由と、当別ダムになった理由についてですが、まず、石狩地区を流れる石狩川は、河口に近いので、土砂が多かったり、海水が交ざったりするので、水をきれいにするのが非常に難しく、残念ながら水道水の水源とはしていません。そのため、平成24年度までは、地下水を水源としていましたが、汲み上げ過ぎて地盤が沈んでしまう（地盤沈下）危険性があつたことや、人口が増えて地下水だけでは足りなくなってしまうような状況でした。そのようななか、その他の水道水源としては、地下水以外に良質な水が流れ込む山あいには、ダムを建設することが考えられます。そこで、北海道が防災や周辺都市の水源用として建設することになった「当別ダム」から水の供給を受けることを決め、平成25年度に供給が始まりました。

次に、石狩市の水道料金が、札幌市と比べて高いのはなぜか、というご質問にお答えいたします。安全・安心な水を作り、皆さんにお届けするためには、浄水場や水道管などを作らなくてはなりません。そしてそれらを維持していくためには、たくさんの費用がかかります。その金額に応じて、それぞれの市町村が水道料金を決めております。市町村ごとに、人口密度や地形・水質が違うので、必要な浄水場の大きさや、水を送るポンプ場の数、水道管の距離などがそれぞれの自治体によって違ってきます。またその管が古くなると、建替えや取り替えなどが必要になるので、かかる費用は市町村によって大きく違ってくることとなります。

それでは、石狩市と札幌市を比較してどう違うのかというと、例えば、札幌市が高い山からの高低差を利用して、自然の力で水を流すことができるのに対し、石狩市は、比較的平地が平たんで高低差を利用できないので、強制的に水を送るポンプ施設を多く建設する必要があります。また、それを動かすための電気料金などの維持費用も、より多くかかることとなります。なによりも、一番大きな原因というのが、札幌市の方が、197～198万人と圧倒的に人口が多く、マンションが多いので人口密度も高く、そして、たくさんの水を使う大型の商業施設や工場、宿泊施設なども密集していることで、水が効率よく大量に使われることになるので、結果として水道料金を低く抑えることができているのではないかと思います。

次に、3点目の北海道胆振東部地震の時に、公園の水道が出た仕組みのご質問ですが、昨年の地震時には、皆さんも知っているとおり、花川北地区を中心に一時断水となりました。これは家も公園も同じです。公園で水が出た理由は、公園の配管が道路下の水道管から近く、単純につながっているため、断水が解消してすぐ水圧が低くても、水が出やすかったのではないかと思います。反対に、家の中の配管は、台所、お風呂、トイレなど入り組んでいて、水圧が低いと水が行き渡らず、水圧が戻るまでの時間が必要だったと考えられます。

最後に、4点目の水道管の更新についてのご質問です。水道管更新のタイミングは、一般的に水道管の寿命が40年と決められていますので、40年を超えたものの中から、優先順位を決めて、順次入れ替え工事を行っています。

私からは以上です。

戸嶋副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

再質問が無いようですので、最後に一言お願いいたします。

横山議員（石狩中）

ありがとうございました。

今回、自分たちが当たり前のように使っている水が、どこから、どんな仕組みで届いているのかわかるいいきっかけとなりました。

私は将来、発展途上国で活動したいと考え、JAICAなどのNGOで働きたいと思っています。そのため、JAICA等のホームページを見ていたところ、SDGsという言葉を知りました。SDGsは持続可能な開発目標の略称で、国連加盟国が2030年までに達成するために掲げた目標です。その目標の一つに、「安全な水とトイレを世界中に」というのがあります。水は生きていく上で欠かさない、大事なものです。今回は自分たちが使っている水道水についてお話を聞き、いろいろなことがわかりました。これからも、安全で安心なおいしい水を飲むよう、よろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

戸嶋副議長

以上で、「まちづくりグループ」からの代表質問を終わります。発表を終えた4名に大きな拍手をお願いします。

それでは、続きまして、一般質問に移ります。樽川中学校 植松議員、厚田中学校 加地議員、花川南中学校 安部議員よろしく申し上げます。

それでは、樽川中学校 植松議員よろしく申し上げます。

植松議員（樽川中）

先程の代表質問で、安全な水についての話がありましたが、僕からは、学校トイレの洋式化について質問いたします。

学校のトイレには和式と洋式がありますが、僕たちは和式トイレを使い慣れていないため、和式が空いていても使わずに、洋式が空くのを待つような状況があります。しかし洋式トイレが少ないので、待っていても使えずに我慢してしまう人もいます。このため、すべてのトイレを洋式化してほしいと考えますが、いかがでしょうか。

戸嶋副議長

安崎生涯学習部長

安崎生涯学習部長

樽川中学校植松議員のご質問に私からお答えします。

東日本大震災や熊本地震の際に、避難所となった学校トイレのほとんどが和式便器で、足腰の弱い高齢者や障がいの方が使えないという弊害がクローズアップされました。文部科学省が3年前に行った調査では、全国の小中学校のトイレの洋式化率は約43%という結果で、家庭では当たり前となった洋式トイレが、学校への普及が全国的にも立ち遅れている実態が明らかになりました。震災



の教訓を活かすためにも、避難所となる学校トイレの洋式化は、極めて重要な課題であり、今後の優先事項として着実に進めていきたいと思いを。

ただし、トイレの改修には多額の費用がかかりますので、整備が段階的に進めなければならないという現実があります。またその際は先程ご発言にあったように、和式を避けて洋式に並んだり、排便を我慢し腹痛を起こしたりするといった状況が、小学校低学年に顕著に見られることから、小学校を優先して改修を進めております。こうした事情についてはご理解いただきたいと思いを。

私からは以上です。

戸嶋副議長

ただいまの答弁について、何かありますか。

樽川中学校 植松議員。

植松議員（樽川中）

それでは、小学校の洋式化をすべて終えるまでにあとどのくらいの期間が必要でしょうか。

戸嶋副議長

安崎生涯学習部長

安崎生涯学習部長

重ねてのご質問にお答えいたします。

和式の便器だけを取り換えていけばいい学校と、大規模にリニューアルをしなければいけない学校とがあります。正確にお答えすることはできませんが、最低でも10年以上はかかるかなと思っております。

以上です。

戸嶋副議長

佐々木教育長

佐々木教育長

ただいまの質問に私からも補足をさせていただきたいと思いを。

10年以上かかる見込みだとお答えしましたがけれども、小学校が全部終わらないと中学校に手をつけられないということではなく、その辺りはバランスということも考えながら進めていきますので、その点をご理解いただきたいと思いを。

戸嶋副議長

ただいまの答弁について何かありますか。

樽川中学校植松議員。

植松議員（樽川中）

わかりました。なるべく早くの洋式化を望んでいます。ありがとうございました。

戸嶋副議長

続きまして、厚田中学校加地議員よろしく申し上げます。

加地議員（厚田中）

私は家がブリーダーをやっていることから、将来獣医になりたいと思っています。市長は、私達ぐらいの時、将来になりたい職業はありましたか。また、なぜ石狩市役所で働こう、市長になろうと思ったのですか。

戸嶋副議長

加藤市長

加藤市長

難しい質問ありがとうございます。

まず中学生の頃の将来の夢ですが、小学校6年生の時に、今はありませんが丘珠から東京行きの飛行機に初めて乗って、子どもながらに大空っていいなあ、パイロットになりたいなあと思いました。しかし、その後英語ができなかったこともあり諦めました。

そしてなぜ市役所で働こうと思ったかですが、実は私は元々は北海道の職員でした。5年間道庁で仕事をした後に、国の機関で霞が関にあった自治省で6年間と国土省で4年間、仕事をしました。その後道庁に戻りましたが43歳くらいの時に石狩市に派遣され2年2か月間ほど勤務し、また道庁に戻りました。国・道・市役所と3つの機関を経験しましたが、一番楽しかったのが石狩市の仕事でした。国・道・市町村とそれぞれに仕事の役割があり、やりがいのある仕事ですが、国の場合だと日本全国1億2千万人、道だと530万人のことを考えて仕事をしなければなりません。石狩市だと5万8千人くらいの市民の方と直接やり取りができるし、非常に反応が速いです。ですから、辛さや厳しさもありますが、本当にやりがいがあると思ったので、51歳の頃に道庁を退職して、石狩市の職員として働きました。

最後になぜ市長になろうと思ったのかです。私の前に田岡市長が20年間、市のまちづくりをしていたのはご存知かと思います。大きな病気をしながらも、本当に石狩というまちを愛して、全身全霊で市民の皆さまのために、20年間も汗をかいて仕事をしている姿を自分も間近で見ていて、自分も市長になってまちづくりを一生懸命やりたいなと思って立候補した次第です。

戸嶋副議長

ただいまの答弁について、何かありますか。

厚田中学校加地議員

加地議員（厚田中）

今の話を聞いて、私も将来頑張ろうと思いました。ありがとうございました。

戸嶋副議長

続きまして、花川南中学校安部議員、よろしくお願いします。

安部議員（花川南中）

除雪について質問いたします。

市長は「選挙活動中に除雪に関する声が多く聞かれた」とお話しているのを広報で見ました。新学期が始まる前に道路の排雪をしていただいています、新学期が始まって作業が終わっていないことが時折あります。小学生などは雪山にのぼってしまいますし、雪山のかげとなってヒヤリとしたこともあります。

そこで質問です。除排雪対策について具体的な課題や方策は見えてきたでしょうか。

戸嶋副議長

加藤市長

加藤市長

花川南中学校安部静香議員の質問にお答えをいたします。

まず、広報を読んでいただきありがとうございます。除排雪は市民の皆さんの身近な生活に関わる大切な問題だと思っております。市ではこれまで、市民の皆さんにとってよりよい除排雪ができるように、気象条件などのデータを分析したり、市民の方々にご意見などを聞いたりして、検討を重ねながら改善に努めてきました。ただ課題としては、これは石狩市の問題だけではないのですが、近年ダンプトラックが減少しているという問題があります。また、気温が急に下がって融けるはずの雪が融けないなど近年の気象の変化というのがあって、昨シーズンは、特に雪の降り方が大きく変化しております。このようなことがあって排雪期間が長くなり、特に昨年の冬は多くの地区で排雪が遅れて、本当に皆さま方にはご迷惑をおかけしたのではないかと思っております。

そこで私ども市としては、このような課題点を中心に改善策を検討することが必要であると私自身も強く認識をしております。現在、除排雪を行う事業者と協議を重ねて、できれば今シーズンのスタートに向けて改善の準備をしているところです。その手法としてはまだ決定ではありませんが、例えば除排雪作業を効率良くできるように工夫をし、幹線道路の交差点部分をピンポイントで排雪するなどして見通しを良くし、バスや車が通行しやすくしようということなどです。

いずれにしても市内に住んでいる皆さんが冬でも安心して生活できるように改善し、少しでも満足度が高くなることを目指したいと思っておりますので、まだ胸を張って大丈夫だとは言い切れませんが、今まさに議論している最中ですので、見守っていただければありがたいと思います。

以上です。

戸嶋副議長

ただいまの答弁について、何かありますか。

花川南中学校、安部議員。

安部議員（花川南中）

私たちも、冬期間は、いつも以上に気を付けて道を歩こうと思います。ありがとうございました。

戸嶋副議長

以上で、「まちづくりグループ」、「選挙グループ」からの一般質問を終わります。発表を終えた3名に大きな拍手をお願いします。

続きまして、「選挙グループ」の質問です。

石狩翔陽高校 大崎議員、石狩南高校 石岡議員、同じく石垣議員、花川南中学校 安部議員、よろしくをお願いします。

それでは、選挙グループよろしくをお願いします。

大崎議員（石狩翔陽高）

選挙についてご質問します。

今年は選挙が多い年で、まだ選挙権を持たない私たちも、お店の前などで演説しているところに出くわしたり、選挙カーやポスターを見るなど、選挙に接する機会がありました。そのような中で、学校でのテスト中に選挙カーが通るなどしたため、どうにかならないものかという声も正直ありました。

そこで私たちは、選挙活動の際、スピーカーの音量や演説の場所などについて何か決まりがあるのかを調べたり、市の職員の方に聞いたりしたところ、学校や病院の近くは『静穏（せいおん）を保持するように努めなければならない』とあるだけで、厳密には決められていないということがわかりました。

石岡議員（石狩南高）

次に、どの程度の人が投票に行っているのかを調べてみました。

今回の市長・市議選の投票率は50%程度であることがわかりました。また、この数字が高いのかどうかを調べていくと、昭和40年代後半から徐々に下降し続けていることがわかりました。これは若い人だけに限らず日本全体のことのようです。

そこで、投票に行く人が増えるためのアイデアを話し合ってみました。1つは、投票をしてくれた人にポケットティッシュやうちわなどのプレゼントを配布すること。もうひとつは選挙活動をパレードのようにしている国があるように、日本ももっと関心をひくような活動をしてはどうかというアイデアです。ですが、どちらも税金がかかりますし、投票率が上がったとしてもちゃんとした考えを持った投票でないという意味がないということに気がつきました。

石垣議員（石狩南高）

次に、投票に行かない理由として時間がかかって面倒ということがあるのではないかと思い、時間短縮の方法を考えてみました。

私たちから出された意見として、1つめは、小選挙区制と比例代表制の投票用紙があった場合、1枚を投票してから次のものをもらうということですが、それだと時間がかかり、場合によっては待つことも考えられるため、2枚を同時に渡すことはできないかということです。2つめは、セキュリティの面やパソコン等の操作方法について課題はあると思いますが、仕事で忙しい方や年配で外出が困難な方も投票がしやすいように、インターネットを使っての投票はできないかです。

そこで伺いたいと思います。

1点目は、今回の市長選の投票率について、正直どのような印象をお持ちですか。多いと思いますか、思ったより少ないと思いますか？

2点目は、近年の全国的な投票率の低下の要因は何だとお考えですか。また、今後投票率が上がっていくために必要と思うことについて、市長のお考えをお聞かせください。

戸嶋副議長

及川選挙管理委員会事務局長

及川選挙管理委員会事務局長

ただいまの「選挙グループ」からの質問に私からお答えいたします。

始めに、市長選挙の投票率についてであります。本年5月に行われました石狩市長選挙の投票率は、ただいま議員からご指摘のとおり50.37%で、前回と比較しますと14.07%低下する結果となりました。投票率は、投票日の天候や立候補の状況などにも影響を受け、都度増減するといわれております。また、予測は難しく、高い、低い判断も一概には出来ないものであります。長期的な低落傾向にありますし、今回の投票率につきましても、どちらかといえば、低いと言わざるを得ないと考えております。

次に、投票率低下の要因と、今後の対策についてであります。このような投票率の低下傾向は全国的に見られるものでありまして、年代別に見ますと特に若年層の投票率が低いこととなっております。その要因としては、有権者である国民・住民の皆さまの政治への関心の薄れなどが挙げられております。

今後、投票率を上げていくために石狩市としてできることは、市民の皆さまが、市政への関心、参加しようとする意識、意欲をより高めていただける市の情報発信をして、市民参加を更に進めていくことや、投票制度など選挙の仕組みについて若い方々を中心に啓発を図りまして、選挙への知識と関心を高めるなどすることが必要と考えております。それと、ただいま提案していただいた投票しやすくするような環境を整えていくことも、とても大事なことだと思っております。このようなことに力を入れて、少しでも投票率が上がるように努力して参りたいと思います。

私からは以上です。

戸嶋副議長

ただいまの答弁について、再質問はありますか。

石狩南高校、石垣議員。

石垣議員（石狩南高）

最後にもうひとつ伺いたいのですが、今回、実際に立候補したお立場として、選挙活動というものを通して、辛かったこと、嬉しかったことなど感想を是非、お聞かせください。

戸嶋副議長

加藤市長

加藤市長

重ねての質問にお答えいたします。

まず最初の質問の中で、学校でのテスト中に選挙カーがうるさいと感じて、調べてみたら公職選挙法では静穏を保持するように努めなければならないとしか決まっていないということがわかったとありました。自分が選挙活動をしている時には、その法律にあるように、学校や病院の側に行ったときには音量を下げたり、マイクを持たないようにするなどの努力をしたつもりではありますが、もしうるさいと感じたことがあったとしたら申し訳ございません。

さて辛かったことですが、1月31日までは市の職員で、2月になって後援会活動というものをを行い、実際の選挙運動というのは5月12日から18日までで19日が投票でした。2月から後援会活動をしていたため、1か月に1～2回は会うようにしていた4歳の孫は可愛く、会うことでとても癒されていたため、会えなくなって寂しいと感じ、それが辛かったことのひとつです。

それから嬉しかったことですが、投開票日に多くの方に応援していただいて自分が当選したということが一番嬉しかったですし、実際に住宅街を選挙カーに乗っていたり、住宅街を歩くと、家から出て来て手を振っていただけると、本当に涙が出るくらい嬉しかったです。そして余談ですが、選挙活動の時間というのは朝8時から夜8時までと法律で決められています。活動中の1週間、選挙カーの助手席に乗って手を振っているわけなのですが、そうすると選挙が終わった後に娘が運転する車の助手席に乗っていると、左手を振りたくなる感覚に陥りました。もし皆さんが選挙に出る機会がありましたら、経験してみるとわかると思います。

そして皆さんにお願いなのですが、先ほど選挙管理事務局長から答弁がありましたが、近年は18歳から投票権が与えられますので、私たち自身が努力しなくてはいけない部分がありますが、政治に興味・関心をもっていただけであればありがたいと思います。

私からは以上です。ありがとうございます。

戸嶋副議長

ほかに再質問はありますか。

再質問がないようですので、最後にひとことお願いいたします。

大崎議員（石狩翔陽高）

私たちも18歳になったら選挙権をもちますので、選挙には行こうと思います。そして、もし立候補するようなことがあれば、市長の体験を参考にさせていただこうと思います。これで私たちの質問を終わります。ありがとうございました。

戸嶋副議長

以上で、「選挙グループ」からの代表質問を終わります。発表を終えた4名に大きな拍手をお願いします。

これもちまして、全ての質問を終了いたします。加藤市長、佐々木教育長、市役所の皆さん、今日は私たちの提案を聞いて真剣に答えていただき、ありがとうございました。

## 6．石狩市議会副議長講評

戸嶋副議長

続いて、石狩市議会 上村賢副議長から、今日の子ども議会の講評をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

上村石狩市議会副議長

まずは皆さまお疲れ様でした。議長そして議員席の座り心地はいかがでしたでしょうか。私たちもいつもは議員席に座って、加藤市長にいろいろと質問させていただいています。IYP を終えて、代表質問・一般質問に私からひと言だけ総評申し上げます。

まずは手話グループの皆さま、手話に関する条例は石狩が先進自治体として全国で広がりを見せています。多くの自治体がこの条例に関して石狩市へ視察に来られています。その中で皆さんが興味をもたれ、さらにはアイデアを持たれて質問されたことにとっても関心いたしました。そして市長からお答えがありましたが、市ではひとりでも多くの皆さんに手話を言語として理解していただくように取り組んでおります。ぜひ皆さんも今後時間がある時にはいろいろなイベントに参加して、手話条例をしっかりと皆さま方に広めていただきたいと思います。

そして学校グループの皆さま、皆さま方が学校で生活している中で、いろいろなことを考えられているということが質問からわかりました。私たちも学校の整備については委員会や本会議で多くの質問を行っております。皆さまによりよい環境整備を議会としても、皆さんの視点で取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。

そしてまちづくりグループの皆さま、水道関係に関する質問ですが、昨年の胆振東部地震の時に一時的に市内の給水ができなくなりました。幸い短時間で復旧いたしました。この地震でいろいろな課題が見えてきました。また、水道料金のことに関しても、市民の皆さまに理解を求めているところでございますが、一方で先ほど説明にもありましたが、市民の皆さま長期的に安心安全な水道水を提供しなくてはなりません。そのため現在の石狩市の水道料金が皆さまのお力をお借りして維持していることを理解していただければ、この質問の大きな役割であったと私は考えております。

最後に選挙グループ。先ほど質問にありましたが、石狩市は知事選挙・道議会議員選挙・市長選挙・市議会議員選挙、そして国政選挙では参議院選挙と5つの選挙が行われました。全ての選挙において、約半数の市民の方が投票に行っていないという結果も出ております。2016年からは18歳選挙権が施行され、高校生の方も投票できる年齢となりました。皆さまがこのことに関心をもつていただき本日質問されました。私たちも政治に関心をもつていただき、そして一人でも多くの方に投票行動を行っていただくように、市長そして議会も努力しなければならないと考えております。ぜひ若い皆さまも協力していただき、このことの解決に向けて皆さまと一緒に取り組んでいきたいと思っております。

そして一般質問になりますが、皆さま方の個性が見られたのかなと思っております。特に学校生活への疑問・課題について一般質問がありました。石狩で生活する上で除排雪の問題も、議会も常々市長に質問しておりますが、一般質問で皆さまからの声を聞かせていただいたことは、これから私たちも議会の場で生かしていきたいと思っております。

最後に、この IYP を無事終えるにあたり、関係者の皆さんに感謝を申し上げ私からの講評とさせ

ていただきます。本日はご苦労様でした。

戸嶋副議長

上村副議長、ありがとうございました。

## 7. 閉会

戸嶋副議長

皆さん、お疲れさまでした。

子ども議会という場で、石狩市のまちづくりについて意見表明ができたことを、嬉しく思います。ここで体験できたことを大切に、これからも「いしかりが好き」と思えるよう石狩の未来に関心を持ち続けたいと思います。

以上で、本日の日程は、全て終了いたしました。これをもちまして、令和元年度「IYP～石狩の未来を考える子ども議会」を閉会いたします。

皆さん、ありがとうございました。

子ども議員

ありがとうございました。

令和2年3月25日議事録確定

議事録署名議員 安部 静香